

**授業概要**

この授業は、“途上国”という言葉で一括りにできない多様な要素を持つ発展途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識する経済開発論が中心である。

発展途上国の開発に永年関与してきた世界銀行は、途上国を一人当たり国民所得が低い順に、低所得国、下位中所得国、上位中所得国に分け、先進国を高所得国と呼んでいる。上位中所得国にほぼ対応した国々を指して、中進国と呼ぶこともある。

授業では、途上国に対する学生の関心に応えつつ、考える力を引き出す開発経済学の基本理論を講義する。

**授業計画**

第 1 回	イントロダクション・全体の概要と目的を述べるとともに、授業内容について解説する。
第 2 回	農業・伝統的制度に秘められた知恵について講義する。
第 3 回	農村信用市場・多様化する農村経済とマイクロファイナンスについて講義する。
第 4 回	教育と健康・人づくりは国づくりについて講義する。
第 5 回	労働移動・バラ色の新天地について講義する。
第 6 回	経済成長と工業化・グローバル化した世界について講義する。
第 7 回	技術移転・学びの道も一歩からについて講義する。
第 8 回	経済開発と貿易について講義する。
第 9 回	開発金融・おらが村とグローバル金融システムの繋がりについて講義する。
第 10 回	開発援助・がんばれニッポンについて講義する。
第 11 回	持続可能な開発・環境と開発の対立を超えてについて講義する。
第 12 回	環境と貿易について講義する。
第 13 回	産業開発と法制度整備について講義する。
第 14 回	開発・貧困とフィールド調査の実際について講義する。
第 15 回	障害と開発について講義する。
第 16 回	筆記試験

**到達目標**

経済学はおもしろく、役に立つ学問であるが、その役に立つ経路が特にはっきりしているのが開発経済学であろう。受講生は、途上国の問題に関心を持ってもらい、その関心が学問としての開発経済学への興味に繋がってほしい。

**履修上の注意**

この授業は、講義形式を中心とするが、受講者の主体的な参加を重視する。この授業で出る途上国の開発や貧困を、経済・社会・政治・法といった多面的な次元から認識し、途上国の経済実態や課題について質問や議論に積極的に取り組んでほしい。試験及びレポートの際に自筆のノートを参照するので、授業を欠席せずにノートをよくとってもらいたい。授業開始後 30 分以上の遅刻は、欠席扱いとする。

**予習・復習**

授業のレジュメを把握し、教科書の該当箇所と新聞・WEB サイトの途上国経済に関する記事をよく読むこと。配布した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

**評価方法**

学期末試験 70%、授業内レポート 20%、受講態度 10%。

**テキスト**

- ・教科書名：『ストーリーで学ぶ開発経済学』一途上国の暮らしを考える
- ・著者名：黒崎卓/栗田匡相
- ・出版社名：有斐閣ストゥディア
- ・出版年 (ISBN)：2016 年 (978-4641150348)